

子牛の *Pasteurella multocida* による精巣上体炎：岡

山県岡山家保病性鑑定課 難波かおり、橋田明彦

Pasteurella multocida (Pm) は、呼吸器感染症原因菌として知られているが、牛の精巣上体炎起因菌としての報告は稀。今回、Pmによる精巣上体炎に遭遇したので概要を報告する。2023年10月3日、2ヶ月齢子牛が左右陰嚢腫大を呈し、治療に反応しなかったため左右陰嚢内容を摘出。病理組織検査では左右精巣上体に化膿性炎を認め、抗Pm-A抗体を用いた免疫染色で病変部に一致して陽性反応確認。細菌検査では、左右精巣及び精巣上体、尿からPmが分離され、莢膜抗原型はA型、毒素遺伝子 *tox A* は保有なし。PFGEによる解析で、本県で過去に分離された牛精巣上体炎由来株及び牛呼吸器由来株と近縁な可能性が示唆された。また、MLSTによる遺伝子型別では牛呼吸器由来株の多いST79に分類。このことから、呼吸器等に常在するPmが精巣上体炎にも関与すると考えられた。精巣上体炎発症に関与する病原因子等については未解明であり、病態解明にはさらなる症例の蓄積が必要。